



小学部4年1組 生活科

「わたしたちのまわりのひとたち～「〇〇のプロ」を見つけよう～」

児童の目指す姿

- ・人との関わりを好み、適切な関わり方の習得を目指している。自分の周りには仕事をしている人がいることに気付き、自分の生活と結びつけて考えたり、仕事の内容に興味・関心をもったりすることを目標としている。

単元構想 指導案検討会より

- ・単元のゴールにプロカードを活用する場面設定。
- ・「プロ」の定義づけ。「仕事」「好きなこと」を絞ることも大事ではないか。



児童生徒の学びの姿

主体的な学び

- ・プロを探す。
- ・プロカード収集の期待感
→学習意欲の向上

対話的な学び

- ・個々の実態に応じたコミュニケーションツールの活用
- ・学習を積み重ね
→進んでインタビューする姿

深い学び

- ・体験を自分のものにする。
- ・カードを他学年の児童に紹介
- ・他の教科等とのつながり
- ・感謝される経験や体験
→自己肯定感UP

授業研究会から（課題、改善点、指導助言）

- パターン化した学習の流れがあることで、見通しがもてていた。
- △板書の工夫：情報量の精選や児童の手元にあるプロカードを同様式の掲示物を活用しては。
- △まとめのあり方：言葉カードなどを切り貼りして子どもたちと一緒に作り上げてみては。

題材を通しての成果と課題

- 「プロカード」と連動した形で板書をまとめる。（授業改善）
- ・音楽の時間にカードを活用して「うたのプロ」を招いたことで、自分たちが見つけたという自信と周囲にいる人に依頼する良さを感じることができた。
- ・「プロ探し」を繰り返すことで、「体育のプロは〇〇先生かも」など、児童の気付きにつながった。
- ・校内でプロを見つけると「見つけた！」と目を見開いたり、挨拶したりする姿が見られた。
- ・「次は何のプロ？」など、次時の学習に期待感をもったり、友達や先生の得意なことに気付き「プロ」と表現したりする様子が見られるようになった。

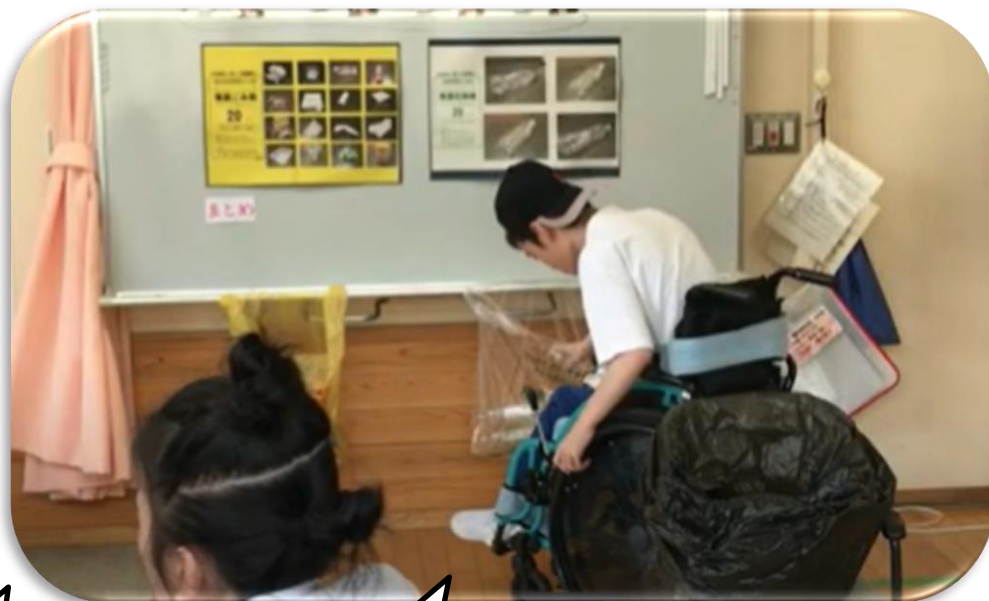
「生活のきまり～みんなのためにごみをわけ隊～」

生徒の目指す姿

昨年度、ごみ処理場を見学し、ごみについての関心をもち始めている。家庭ごみと資源ごみの種類に合わせてごみを分けたり、進んでごみを分けてきれいに生活する気持ちをもったりすることを目標としている。

単元構想
指導案検討会より

- ・ごみの分別が人の役に立つことにつながることを単元の導入で提示
- ・分別の見本や写真、手掛かりとなるマークに着目できるような教材の工夫



児童生徒の学びの姿

主体的な学び

- ・技師さんの役に立つという動機付け
- ・具体物を用いた活動
→進んで活動に取り組む姿

対話的な学び

- ・友達が分別する様子を見て、アドバイスの場面づくり
- ・やり取りの文言を提示
→友達とともに学ぶ姿

深い学び

- ・誰かの「役に立つ」ために仕分ける。
- ・誰かの「役に立ちたい」という気持ち
- ・普段の生活とつなげ、身の回りをきれいにする。

授業研究会から（課題、改善点、指導助言）

- 具体物を活用することで、「仕分けをしたい」という気持ちを引き出すことができた。
- △間違えたときに教師が正答へ導こうとするリードが強かった。
- △振り返り動画の活用の仕方：見せる場面を絞ったり、見るポイントを提示したりするといいいのでは。

題材を通しての成果と課題

- ・食べたり飲んだりすると空になったものが「ごみ」であることが認識できていた。
- ・技師さんに実際に分ける場面を見てもらい、感謝されたことで自信につながった。
- ・自分からごみを捨てるという行動が強くなった。
- ・「ペットボトル」やごみを「分ける」などの言葉を覚え、ごみを分けて捨てるようになった。